

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院 長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [蒲生 悠真]

学年・組・番号 [2 年 D 組 15 番]

研究課題： 民俗学的な視点からのロマとサンカの比較

(英文) the comparison between loma and Japanese wanderers called “Sanka”
from the folklore perspective

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

今回の研究では、ロマとサンカの民俗としての面を比較しとらえていく。このような比較をしたときに最も大きい違いは言語を持っているか否か、であると考えられる。三角寛の作品や論文の中ではサンカはサンカ語と呼ばれる言語を使用するといわれていたが、サンカの発生から考えるとこれは不自然であり、日本語を使うとされている。しかしロマの人々はロマ語と呼ばれる言語を使う。さらに違いを言うとするれば、ロマには多種多様な民族が入っていて、最初にインドから出てきた民族から大きく離れたものを持っている、自分たちをロマ人という人種と認識し、ロマの国旗も作っている。一方で、沖浦和光の主張によるとサンカは飢饉が発生したことにより田畑を捨て、生きながらえるために山中へ入った人々である。このようにサンカとロマ、二つの漂泊民には大きな違いがあると私は考える。だがロマとサンカ、この両方は歴史的に見て差別の対象としても扱われてきたことなど、共通の特徴を持つ部分も多く見受けられる。私はこの二つの漂泊民がどのようにして現れ、何を同根に持ち、何を違いとして持つのか、ということ疑問に思い、これらについて研究を行いたいと考えた。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

結論として、ロマとサンカは両方とも定住せずに漂泊する集団であり、双方の民俗は漂泊の生活に強く影響されていた。ロマはサンカと比べて長い期間の漂泊生活であったため、民俗の中でも特に民間療法やまじないといった深い部分まで影響がみられた。一方でサンカはロマに対して短い期間の漂泊であったため、生活や風習といった面で生活スタイルが漂泊の中での生活に適応している。この両者の共通点は漂泊の生活の中で農業などの共同体の中で固定された役割をすることができないという点であると考えられる。ロマの魔術はシャーマン的な役割を持つ人間がいない地域で民間伝承の中での悪霊と人間との関係を取り持つもので隙間産業的なものであると言える。

このような結論を得てこれから発展させていくときに、次回はサンカ、ロマという具体的な例のみでなく漂泊集団という大きなくくりで見たときにその集団の大小がどのような影響をもたらすのか、ということについて発展させていきたいと感じた。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 2 年 D 組 15 番 蒲生 悠真

研究分担者 2 年 D 組 19 番 徳田 良信君 2 年 D 組 20 番 南波 知成君 2 年 D 組 37 番 平井 利空君

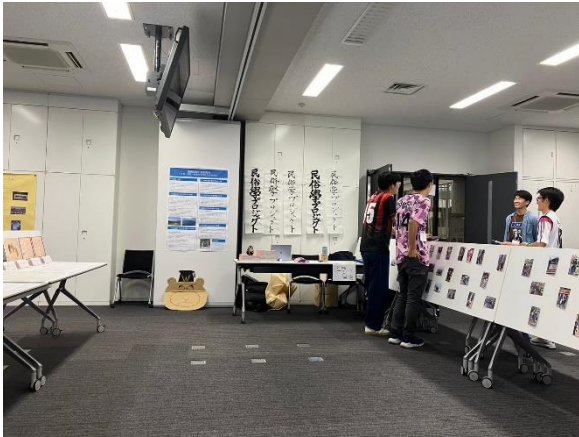
担当教諭 松澤 徹先生

(受給額： 26000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上